

「KOBE 2024」



世界パラ陸上

# 子ども記者新聞

No.1

子ども記者のみんな



小学3年生～5年生の子どもたちによる「子ども記者団」が、2023年4月30日に行われたWPA公認 第34回 日本パラ陸上きょうぎ選手権大会取材！子育てサイト「未来へいこよ」に掲載された記事の一部をダイジェストで紹介！



小学生の「子ども記者団」がインタビュー！

## パラ陸上のアスリートに

まえがわ選手は、ふとももを切断して義足を使う「T63」クラスで、100mと走り幅とびをする選手です。2016年のリオデジャネイロパラリンピックでは走り幅とびで4位、100mで7位に入賞。2017年のロンドン世界パラ陸上では走り幅とびで銀メダル、東京パラリンピックでも走り幅とびで5位入賞と世界でかつやくしています。



前川 楓選手



大ジャンプ！

かなみ記者：どれくらい前からパラ陸上をやっているんですか？  
まえがわ選手：陸上はもう9年目かな。足を切って、もう10年。持ってみる？ 足？（プシューッと空気が抜ける音がしてまえがわ選手の義足がはずれる）  
こうき記者：うわっ、すごい！  
まえがわ選手：重たいかも…いいよ、持っても。  
かなみ記者：（持ってみて）重たい…  
まえがわ選手：これを足につけてふりまわさなあかんから、けっこうたいへんなんです。  
こうき記者：これがカーボンファイバーですか？  
まえがわ選手：そう！ よく知ってるなあ。これ（義足）は3kgくらいしかないから、自分の足よりもたぶん軽いよ。  
こうき記者：ここ（義足の中）は（空間がある）

「人との出会いで自分が変わる」

ているのではなく）埋まっているのかかと思っただ。  
まえがわ選手：そこに足を入れなあかんから（笑）。ここ（義足のひざごさのあたり）にボタンがあるやろ？（足を入れて地面に押しつけると）空気が抜けるようになって、足が抜けんくなるんやけど。逆にボタンを押すと義足の中に空気が入って抜けるようになる。  
こうき記者：よく考えられている！  
まえがわ選手：（にっこりとして）なっ！  
子ども記者団スタッフ：最後に2人の記者にお話してもらいたいことがあります。パラ陸上選手になってまえがわ選手が手に入れた「宝物」はなんですか？  
こうき記者：自分の最高記録ですか？  
まえがわ選手：うーん、そやなあ。でも、それ以上にやっぱ「人との出会い」が私にとって宝物かなと思っていて。海外の試合に行くと世界の選手と一緒に話したり、合宿したら一緒に生活して「日本ではこうやけど、外国ではこうなんや！」みたいな発見がいっぱいあって。それで自分がちょっとずつ変わっていくのが、一番の宝物かなって思います。

やまと記者：やり投げや野球など、ひとつのことを長く続けられるコツはなんですか？

わこう選手：野球は、プロ野球選手になるというのが小さい頃の夢でした。なのでプロ野球選手になるためには、やっぱり努力しないといけないので、周りの友だちが遊んでるときに練習することもあったけど、ただ「友だちと遊ぶことも大切」だから。そういう友だちとの時間も大切に、両方全力でがんばって欲しいです。自分も、それを大切にしてきました。やり投げも同じように自分を成長させてくれるので、やり投げでがんばる姿を見せるために努力をしています。

まさら記者：やり投げはすごく集中しないとできないスポーツだと思いました。わこう選手が集中するために普段していることは何ですか？

わこう選手：やり投げの場合は、自分の一番いい「投げ」がその1本でできるように、全力で1本1本集中して取り組むことを意識しています。

「仲間の存在が宝物」

子ども記者団スタッフ：ありがとうございます。最後に、わこう選手がパラ陸上選手になって手に入れた「宝物」を子ども記者に教えてください。  
わこう選手：すごく大きくびっくりすると「仲間の存在」です。家族もそうですし、大学と学生時代の友人だったり、今の指導者や所属している会社もそうです。自分はすごく人に恵まれて今の自分がいます。そういう意味で「仲間」が宝物です。



若生 裕太選手



わこう選手は小学1年生から野球を始め、高校を卒業後は大学で野球を続けながら体育の先生になろうとしていたころ、レーベル病（視力や目が見える範囲がせまくなる病気）にかかりました。2018年4月からパラスポーツをはじめ、6月には「やり投げ」のみをやることに。2019年には日本記録、2021年には多くの大会で優勝しています。取材した大会では、60m03をマークして大会5連覇しました。

World Para Athletics CHAMPIONSHIPS KOBE 2024  
その迫力、その感動、東アジア初。  
KOBE 2024 世界パラ陸上競技選手権大会  
2024.5.17 fri - 25 sat  
神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

子どもたちがパラスポーツ観戦で学び感動に触れる機会を支援しませんか？  
KOBE2024世界パラ陸上 ONEクラス応援制度  
皆さまからいただいたご支援（105万円～）で学校1クラス分の子どもたちを神戸2024世界パラ陸上に招待します！

「パラ選手のすごさを五感で感じてほしい！」  
第50回神戸まつりで増田明美会長にインタビュー  
かなみ記者：増田さんがいろいろな人にパラ陸上で知ってもらいたいと思うことを教えてください。  
増田会長：選手が活躍している姿を本当にいろいろな人に肌で感じてほしいです！肌で感じるというのは、五感で感じるということ。実際に目で見て、音や感覚でパラアスリートのすごさを感じてほしい！  
かなみ記者：多くの人に神戸2024世界パラ陸上に関心を持ってもらうためにはどうしたらいいと思いますか？  
増田会長：みんながすごいって思うような選手の存在を知って、まずはパラ陸上に関心を持ってほしい。走り幅跳びの山本篤選手（2008年北京パラリンピックから3大会連続出場、2016年リオパラリンピックで銀メダル、100メートルリレーで銅メダル獲得）とか、他にもすごい選手がいるし、あと2種目以上の種目に出るような二刀流の選手もいるから、そういうすごい選手の活躍をぜひ見てほしい！

2024年は世界のパラ陸上選手を神戸で見られる！  
7人の選手に話を聞いたインタビューの完全版はこちら！  
スポーツくじ  
WINNER TOTO BIG  
スポーツ振興くじ助成事業